

買ひ物双六 (大正3年)

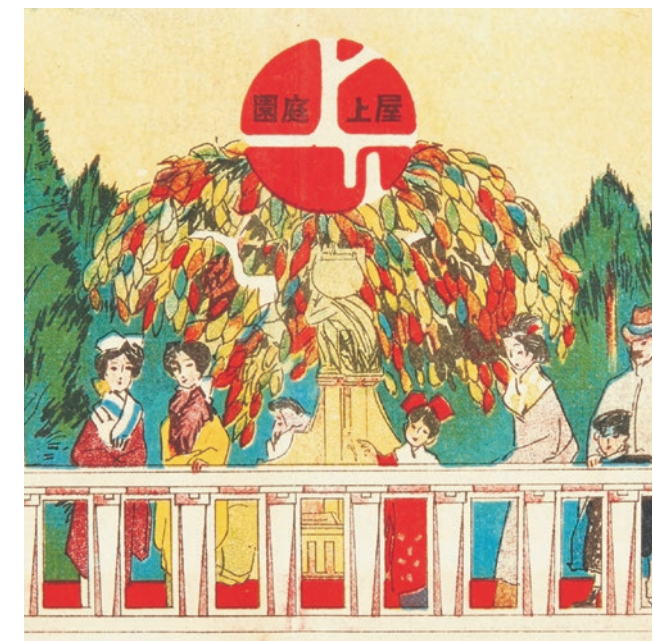
デパートメントストア

双六には美しい絵とともに、時代の価値観が凝縮されています。そんな絵双六の世界を、ホームページ「築地双六館」館長・吉田 修さんに紹介していただく新連載。第1回は、大正3年当時の庶民の憧れ、高層デパートでのショッピングを描いた双六です。



絵双六は時代の価値観を映す鏡です。上がりにはその時代の夢や憧れが表現されており、庶民の息吹が伝わってきます。日本最初の絵双六は一三世紀後半頃、天台宗の新米の僧に仏法の名目を遊びながら学ばせるために考案されました。江戸時代には、当時世界一の多色刷木版技術である浮世絵の技法で、歌舞伎・道中・名所・武者など、さまざまな双六が発行されました。明治以降は印刷技術の向上、雑誌付録の誕生、流通販売ルートの確立により裾野がさらに広がって、家庭の娯楽品として愛されました。

この買ひ物双六は、大正3年に少女雑誌の付録として作成された大正ロマンの香りのする双六です。晴れ着の家族が緋毛氈に導かれてデパートのいろいろな売り場を巡ります。動物園や植物園もあります。晴れやかでわくわくする都市生活の一面がうかがえます。ちなみにこの年は、第二次大隈内閣が成立し、辰野金吾設計による東京駅が完成し、宝塚少女歌劇が第一回公演を行い、第一次世界大戦が始まった年でした。



上がり
22個のコマを経て、デパートの屋上庭園で家族が階下を見渡すコマで上がりだ。エレベーターを使ったショートカット機能もある。



振出し
天井画のある吹き抜けの1階に、晴れ着に日本髪を結ったご婦人が子ども連れで入館。庶民向けの西洋風建築が珍しい時代であった。

文・監修 **吉田 修**

よしだ・おさむ ●1954年生まれ、島根県松江市出身。全国求人情報協会常務理事、NPO キャリア権推進ネットワーク広報部長、和文

教育学会会員を務める傍ら、築地双六館館長として双六の蒐集・研究・制作に取組む。公式HP=<http://www.sugoroku.net/index.html>



所蔵=吉田 修 写真=鶴崎 燃

大正3年「少女の友」正月号付録。サイズは縦80cm、横55cm。画は川端 龍子、案は星野水裏というコンビの作品だ。